

2024年3月期第3四半期 決算補足説明資料

藤森工業株式会社

2024年2月7日

	ウェルネス事業	環境ソリューション事業	情報電子事業	産業インフラ事業
				
事業内容	製品とサービスを通じて身体と心の健康の実現を推進する事業	環境問題に向き合い、循環型社会に必要な価値を提供する事業	超スマート社会に必要な高機能部材を提供する事業	生活を支える産業インフラ強化への貢献と企画提案商品による価値提供を推進する事業
製品分野	医薬・医療関連	生活包装及び産業包装関連	ディスプレイ関連	建築資材関連
	バイオ関連	容器	電子部材関連	土木資材関連
主要製品	医薬・医療用包装材	粧業包装、つめかえ包装、食品包装	プロテクトフィルム	ビル用煙突、ボイドスラブ、空調用配管
	バイオ医薬品等製造用シングルユースバッグ	OA機器関連包装	剥離フィルム	トンネル用資材
	医療機器及び体外診断薬関連	プラスチック製液体容器（バッグインボックス）	情報記録用材	プラスチック原料・商品及び関連機械
			その他情報関連機器用材	

売上高は増収、営業利益、経常利益は増益。

親会社株主に帰属する当期純利益は、補償請求に伴い偶発損失引当金繰入額を計上したことにより減益。

(単位：百万円)

連結	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	前年同期比		2022年度 通期	2023年度通期 業績予想	前期比	
			増減	伸び率			増減	伸び率
売上高	99,149	101,763	2,614	2.6%	129,364	135,000	5,635	4.4%
営業利益	5,276	6,379	1,102	20.9%	5,882	8,000	2,117	36.0%
経常利益	6,111	6,964	853	14.0%	6,828	8,350	1,521	22.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,435	3,150	△1,284	△29.0%	4,854	4,000	△854	△17.6%

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計		2023年度 3Q累計		増減	伸び率	2022年度 通期		2023年度 通期 業績予想		増減	伸び率
売上高	991	100.0%	1,017	100.0%	26	2.6%	1,293	100.0%	1,350	100.0%	56	4.4%
ウェルネス	202	20.4%	198	19.5%	△4	△2.2%	270	20.9%	260	19.3%	△10	△3.9%
環境ソリューション	253	25.6%	252	24.8%	△0	△0.2%	337	26.1%	334	24.7%	△3	△1.0%
情報電子	303	30.6%	326	32.1%	22	7.4%	379	29.4%	441	32.7%	61	16.1%
産業インフラ	231	23.4%	240	23.6%	8	3.6%	305	23.6%	315	23.3%	9	3.0%
営業利益	52	5.3%	63	6.3%	11	20.9%	58	4.5%	80	5.9%	21	36.0%
ウェルネス	12	6.3%	8	4.3%	△4	△33.3%	13	4.9%	10	3.8%	△3	△23.8%
環境ソリューション	12	4.8%	11	4.7%	△0	△2.5%	12	3.7%	13	4.1%	1	9.1%
情報電子	6	2.2%	18	5.7%	11	178.9%	4	1.3%	25	5.8%	20	431.1%
産業インフラ	21	9.1%	24	10.3%	3	17.3%	28	9.3%	30	9.7%	2	8.4%

※第1四半期連結会計期間より、当年度の経営体制の変更に合わせて管理区分の一部見直しを行い、報告セグメントを変更しております。

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減 (22.3Q累計比)	2022年度 通期	2023年度 通期予想	増減 (’22年度比)
売上高	202	198	△4	270	260	△10
医薬・医療関連	178	179	+0	236	232	△4
バイオ関連	24	19	△4	33	27	△6
(減価償却費)	(7)	(7)	(△0.1)	(10)	(11)	(+0.2)
営業利益	12	8	△4	13	10	△3
営業利益率	6.3%	4.3%	△2.0%	4.9%	3.8%	△1.0%

2023年度 3Q累計

’22年度 3Q累計比 **4億円 減益**

- ・インドネシア子会社は新型コロナ特需が剥落し大幅に減収
- ・バイオ医薬品等製造用シングルユースバッグの売上はワクチン向け需要の減少により減収
- ・国内の医薬・医療関連包装材、医薬向け剥離フィルムは堅調に推移
- ・開発等の先行固定費や人材の投入継続

2023年度業績予想

’22年度比 **3億円 減益**

- ・新型コロナ特需が剥落するなど海外子会社の売上は減少見込み
- ・シングルユースバッグは徐々に回復してきているが、昨年度の水準には到達しない見込み
- ・国内の医薬・医療関連包装材、医薬向け剥離フィルムは堅調に推移
- ・バイオ関連では、再生医療分野での共同開発費用、医療機器関連での後継機開発等で、固定費投入が増大

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減 (22.3Q累計比)	2022年度 通期	2023年度 通期予想	増減 (’22年度比)
売上高	253	252	△0	337	334	△3
生活包装及び産業包装関連	185	181	△3	245	236	△9
液体容器	67	71	+3	91	97	+6
(減価償却費)	(9)	(13)	(+4.0)	(13)	(18)	(+4.9)
営業利益	12	11	△0	12	13	+1
営業利益率	4.8%	4.7%	△0.1%	3.7%	4.1%	+0.4%

2023年度 3Q累計

’22年度 3Q累計比 **0億円 減益**

- 生活包装及び産業包装関連では、つめかえ包装や粧業包装、食品包装では増収を確保したもののOA機器関連包装は減収となる
- 液体容器は血液検査関連用途の売上が伸長、マレーシア子会社の新規連結も寄与
- 海外展開に向けたマーケティング費用等、先行固定費が増大

2023年度業績予想

’22年度比 **1億円 増益**

- つめかえ包装、粧業包装の需要は下期落ち着くことから期を通じては減収となる予想
- 液体容器はアジア子会社の血液検査関連用途を中心に受注好調で増収の見込み
- 先行固定費が増大するものの、収益向上の推進と増収確保により増益確保を見込む

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減 (22.3Q累計比)	2022年度 通期	2023年度 通期予想	増減 (’22年度比)
売上高	303	326	+22	379	441	+61
ディスプレイ関連	196	253	+56	254	342	+88
電子部材関連他	106	72	△34	125	98	△26
(減価償却費)	(17)	(18)	(+1.7)	(23)	(25)	(+2.0)
営業利益	6	18	+11	4	25	+20
営業利益率	2.2%	5.7%	+3.5%	1.3%	5.8%	+4.5%

2023年度 3Q累計

’22年度 3Q累計比 **11億円 増益**

- ・昨年度生産調整の影響を受けたディスプレイ関連のプロテクトフィルムは需要が回復し大幅な増収
- ・電子部材関連の情報記録用材は半導体市場の低迷が続く
- ・プロテクトフィルムの増収効果と収益改善により増益

2023年度業績予想

’22年度比 **20億円 増益**

- ・昨年度生産調整の影響を大きく受けたディスプレイ関連のプロテクトフィルムは回復し、広幅製品を中心に更なるシェアアップを目指す
- ・電子部材関連の情報記録用材料は、半導体市場の低迷が今年度いっぱい続き本格的な回復は来期となる見込み
- ・損益面では、増収効果から増益を見込む

(単位：億円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減 (22.3Q累計比)	2022年度 通期	2023年度 通期予想	増減 (’22年度比)
売上高	231	240	+8	305	315	+9
建築資材関連	126	123	△2	167	157	△10
土木資材関連	33	40	+6	42	52	+9
化成品	72	76	+4	95	104	+9
(減価償却費)	(3)	(3)	(+0.0)	(4)	(5)	(+0.7)
営業利益	21	24	+3	28	30	+2
営業利益率	9.1%	10.3%	+1.2%	9.3%	9.7%	+0.5%

2023年度 3Q累計

’22年度 3Q累計比 **3億円 増益**

- ・ 建築資材関連では、空調用配管とボイドスラブは堅調に推移したものの、煙突工事で売上が減り減収
- ・ 土木資材関連では、トンネル用資材で増収
- ・ 化成品は国内では微減となったものの、中国子会社の新規連結などにより増収

2023年度業績予想

’22年度比 **2億円 増益**

- ・ 土木資材関連はトンネル用資材で増収。化成品も中国子会社の新規連結に加え国内も復調し増収
- ・ 22年度好調だった煙突工事の売上減少影響が大きく、建築資材関連トータルでは減収
- ・ 4Qでは混成影響もあり前期比減益の想定だが、期を通じては増収増益の見込み

・総資産は146億円増加し、1,430億円となる

(単位：億円)

2022年度末



総資産 1,284
自己資本比率 63.9%

2023年3Q末



総資産 1,430
自己資本比率 59.7%

	'20 通期	'21 通期	'22					'23				
			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	通期	1 Q	2 Q	3 Q	通期修正 業績予想	
売上 (百万円)	117,250	127,819	33,348	32,909	32,890	30,215	129,364	31,893	34,024	35,845	135,000	
営業利益 (百万円)	10,286	10,341	2,480	1,362	1,434	605	5,882	2,064	1,801	2,514	8,000	
経常利益 (百万円)	10,708	11,102	2,872	1,627	1,611	716	6,828	2,201	2,113	2,649	8,350	
当期利益 (百万円)	7,278	7,693	2,496	1,133	806	418	4,854	1,952	1,501	△302	4,000	
1株当たり当期利益(円)	382.43	403.60	131.16	59.39	42.42	22.24	255.68	103.75	79.72	△16.10	212.95	
1株当たり純資産 (円)	3,811.40	4,144.85	4,240.93	4,354.34	4,393.12	4,362.66	4,362.66	4,454.76	4,598.31	4,558.82	-	
1株当たり配当額 (円)	75	82	-	42	-	42	84	-	42	-	84	
自己株式取得額(百万円)	0	208	-	-	-	-	858	-	-	-	672	
総還元性向(%)	19.6	23.0	-	-	-	-	50.5	-	-	-	56.3	
PBR(倍)	1.2	0.9	-	-	-	-	0.7	-	-	-	-	
営業利益率	8.8	8.1	7.4	4.1	4.4	2.0	4.5	6.5	5.3	7.0	5.9	
ROA(総資産営業利益率)	9.1	8.5	-	-	-	-	4.6	-	-	-	-	
ROIC(投下資本利益率)	9.2	8.5	-	-	-	-	4.5	-	-	-	-	
ROE(自己資本当期純利益率)	10.5	10.2	-	-	-	-	6.0	-	-	-	-	
設備投資 (百万円)	8,656	5,436	1,072	1,158	1,242	1,611	5,083	1,475	822	3,490	9,800	
減価償却費 (百万円)	4,928	5,369	1,214	1,261	1,322	1,447	5,247	1,351	1,486	1,524	6,053	
研究開発費 (百万円)	3,038	3,545	905	897	1,026	931	3,759	1,020	1,063	1,092	4,381	

※23年通期業績予想の自己株取得額ならびに総還元性向については、24年1月末までに取得した173,700株を反映して算定しております。
なお、自己株式取得予定は250,000株、上限1,000百万円です。

当社は、2024年3月期第3四半期連結累計期間において、2024年2月7日開催の取締役会で特別損失（偶発損失引当金繰入額）を計上することを決議しました。

特別損失の内容

タイ子会社において製造した医療用包装材の不具合を指摘され、顧客から補償請求の意思表示を受けましたので、これに伴い、第3四半期連結累計期間において21億98百万円を偶発損失引当金繰入額として特別損失に計上しております。

なお、顧客との交渉を継続してまいります。

業績に与える影響

上記特別損失は2024年3月期の第3四半期連結累計期間実績及び通期業績予想に反映しております。

2030年ありたい姿「事業の発展と社会的責任の両立」をめざし、中期計画を推進中

中期の方針

- ・ 基盤の強化
- ・ 新規事業の本格準備
- ・ 環境対応／DX推進
- ・ グループブランド強化

2021

2023

2030

事業の発展と
社会的責任を両立

売上高 2,000億円

営業利益率 10%以上

事業セグメント共通して適切な価格転嫁を継続

グローバルな将来需要を見据えた生産増強・高付加価値化に注力

収益向上

価格転嫁

- ・適切かつ迅速な対応でコスト上昇影響の低減を図る

製造原価低減

- ・材料の見直し・品種統合・生産体制の見直し・設備集約
- ・デジタルを活用したオペレーション効率化(省人化・無人化)

生産増強

- ・医療包装(タイ拠点)/BioPhaS[®](三重拠点)/液体容器(マレーシア拠点)
半導体周辺部材(主にABF)/プロテクトフィルム(沼田/台湾拠点)

保有機能/技術/製品の用途拡大

- ・高速大容量通信部材など電子部材のキーマテリアル開発
工程消耗材より高付加価値な領域へ参入
- ・建築・土木工事の現場用資材のラインアップ拡充
ICTとの組み合わせによる顧客への提供価値拡大・領域拡大
- ・高防湿・非吸着機能×多層成膜技術を活かし有望領域へ参入

グローバル展開

- ・機能性容器の米国/東南アジア展開

環境対応

- ・環境配慮製品のラインアップ拡充と販売比率増
- ・製品設計や工程改善によるCO₂排出、廃棄物、有機溶剤の削減

高付加価値化

事業ポートフォリオ発展に向け、従来の延長線にはない新たな事業の立ち上げを推進
優位性を発揮できる領域において、成長ポテンシャルを見極めた投資判断を行う

新たな領域への先行投資

バイオ関連

微生物・細胞
培養

再生医療・遺伝子治療、バイオプラスチック、培養肉(代替食品)等の領域における事業化を推進。BioPhaS[®]で培った技術やノウハウ、独自開発の培養装置を活かし、培養製品の社会実装の課題『大量培養技術及び、安全性等の評価手法や仕組みの開発』に取り組む。

医療機器

独自の測定原理で出血リスクを定量測定可能な体外診断用医療機器T-TAS[®]01の事業化を推進。北米・欧州への拡販を強化。事業拡大を見据え、関連機器や部材の開発、用途拡大に取り組む。

エネルギー
関連

リチウム電池をはじめとする二次電池・次世代電池部材の事業化を推進。情報電子分野で培った精密コーティング技術や電池評価解析技術、リチウムイオン電池の設計/製造の課題を解決する独自構造のフィルム状電極「ZEF(ZACROS Electrode Film)」・異種素材を接着するフィルム型接着剤「メタシール[®]」等の用途展開に取り組む。

優先的に取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を特定し、KPIを設定
事業活動を通じてより豊かな社会を実現し、持続的に企業価値を高めていく



持続可能で
豊かな未来の創造

「環境配慮型社会の実現」と
「快適で豊かな社会の実現」に取り組む。



環境負荷の最小化

技術革新により、
環境負荷の低減に取り組む。



多彩な人材の
活躍と育成

多様な人材が集い育つ組織づくりによる
価値創出を通じて、社会に貢献。



持続的な成長のため
の組織基盤の強化

法令遵守や社会規範の徹底により、
公正かつ透明性のある事業活動を行う。

世界的なバイオ医薬品市場の拡大を見据え、三重生産拠点の新製造棟建設を推進
基礎工事が完了した建設現場において立柱式を行い、フレームとなる鉄骨工事を開始



バイファス
BioPhaS[®]



立柱式



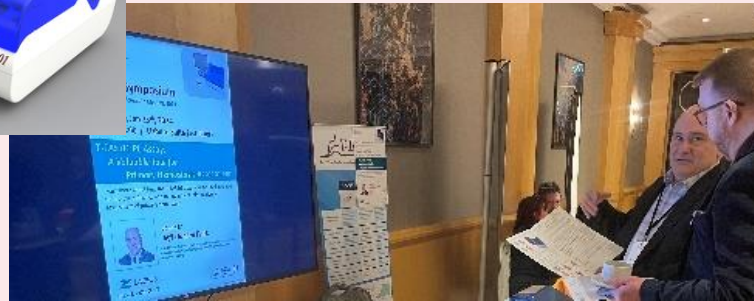
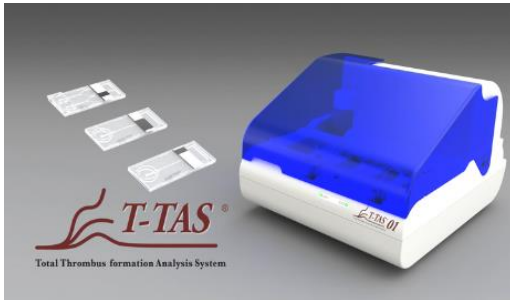
完成予想図 (2024年10月予定)



鉄骨工事

※1. 抗体医薬品やワクチン等の研究開発から製造工程まで使用可能なシングルユース製品

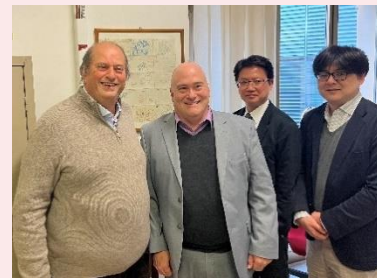
イギリスのBSHT血栓止血学会にてブース展示とランチシンポジウムを開催
欧州各国の病院にも訪問し、拡販のキーマンへT-TAS[®]01の臨床的価値を訴求



ブース展示



ランチシンポジウム



医師・医療従事者・研究者とのコンタクト



販売代理店視察・トレーニング

森永乳業株式会社と共同開発「森永はぐくみ液体ミルク エコらくパウチ」が国際的なパッケージコンテストで受賞。開発コンセプトは“もっと育児がらくになる”



手軽に使用できる

コンパクトで
持ち運びやすい

缶と比べて製造時の
CO₂排出量を削減

災害時にも活躍

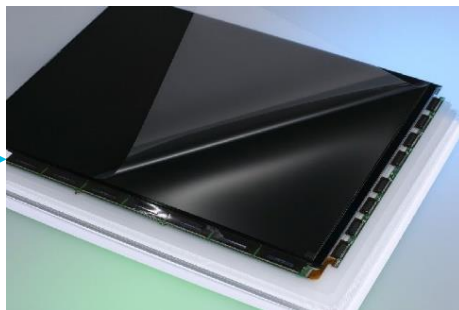


※2/6開示「『森永はぐくみ液体ミルク エコらくパウチ』「ワールドスター賞」、「アジアスター賞」受賞のお知らせ」参照

液晶ディスプレイ大画面化と世界的需要増に対応する、総額145億円の設備投資を決定
既存塗工機の改造・最大3,000mm幅対応塗工機の新設で、生産能力を約1.3倍に増強



群馬県 沼田生産拠点
(2026年度稼働開始)



台湾生産拠点
(2025年度稼働開始)



※12/14開示「偏光板用プロテクトフィルムの生産増強のお知らせ」参照

主力製品「F-TAQ®」拡販に向け、E-ディフェンス(国立研究開発法人防災科学技術研究所の施設)にて震度6強の加振実験を実施。競合品より損傷度合いが低く、安全面での優位性を実証

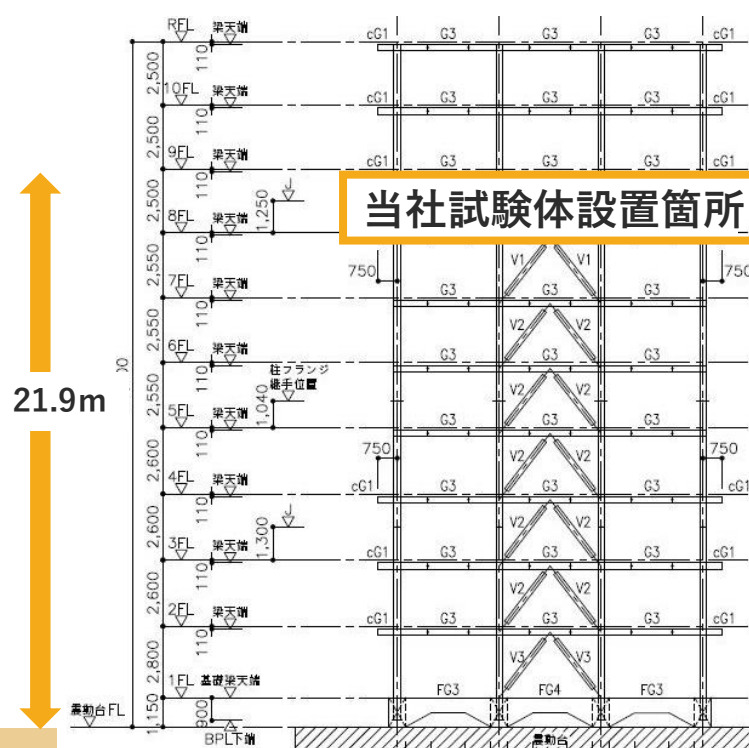


福島県いわき市内清掃センターの排気ダクト落下事例※1

大震災では重量のあるダクトが落下
軽量ダクトの需要が高まる



F-TAQ® 重量は競合品の最大1/5



実験建物図面※2

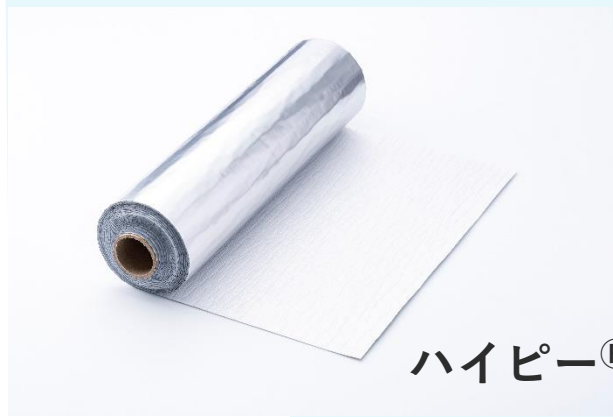
実験建物(E-ディフェンス)概要

階数：10階建て、構造：鉄骨造、建物用途：オフィスビル想定

※1. 出典：東北空調衛生工事業協会 東日本大震災による設備機器被害状況報告, 2012.10, <https://tohoku-kuei.com/pdf/121025shinsai.pdf>

※2. 出典：使用図面は防災科研より提供

テント泊を行いながら復旧活動に当たられている消防隊員の方々への支援として、静岡県掛川市消防本部へ当社製品の保冷断熱シート「ハイピー®フォイルマット」を寄付



ハイピー®フォイルマット

保温・保冷性能に優れ、
積雪による地面からの冷え込みを防ぐ



掛川生産拠点（静岡県）

Appendix

(単位：億円)

	2023年度 期首 業績予想		2023年度 11月 業績予想		2023年度 今回 業績予想		期首 予想比 増減	期首 予想比 伸び率	11月 予想比 増減	11月 予想比 伸び率
	金額	比率	金額	比率	金額	比率				
売上高	1,400	100.0%	1,400	100.0%	1,350	100.0%	△50	△3.6%	△50	△3.6%
ウェルネス	284	20.3%	267	19.1%	260	19.3%	△24	△8.6%	△7	△2.6%
環境ソリューション	350	25.0%	346	24.7%	334	24.7%	△16	△4.7%	△12	△3.5%
情報電子	426	30.5%	463	33.1%	441	32.7%	14	3.3%	△22	△4.8%
産業インフラ	338	24.2%	324	23.1%	315	23.3%	△23	△6.9%	△9	△2.8%
営業利益	70	5.0%	70	5.0%	80	5.9%	10	14.3%	10	14.3%
ウェルネス	15	5.3%	9	3.4%	10	3.8%	△5	△33.3%	1	11.1%
環境ソリューション	14	4.2%	14	4.2%	13	4.1%	△1	△7.1%	△1	△6.8%
情報電子	10	2.4%	17	3.9%	25	5.8%	15	149.5%	7	43.0%
産業インフラ	29	8.9%	28	8.8%	30	9.7%	0	2.4%	2	8.1%

※第1四半期連結会計期間より、当年度の経営体制の変更に合わせて管理区分の一部見直しを行い、報告セグメントを変更しております。

(単位：億円)

		2023年度 上期実績		2023年度 下期予想		増減	伸び率
売上高		659	100.0%	690	100.0%	31	4.8%
	ウェルネス	131	20.0%	128	18.5%	△3	△2.9%
	環境ソリューション	171	26.1%	162	23.5%	△9	△5.6%
	情報電子	201	30.6%	239	34.6%	37	18.6%
	産業インフラ	153	23.3%	161	23.4%	7	5.0%
営業利益		38	5.9%	41	6.0%	2	7.0%
	ウェルネス	7	5.5%	2	2.1%	△4	△63.2%
	環境ソリューション	8	5.0%	5	3.2%	△3	△39.3%
	情報電子	7	3.6%	18	7.6%	10	148.8%
	産業インフラ	15	10.1%	15	9.4%	△0	△1.6%

※第1四半期連結会計期間より、当年度の経営体制の変更に合わせて管理区分の一部見直しを行い、報告セグメントを変更しております。